

# 吟剣詩箱

g i n k e n s h i b u



4年ぶりに  
日本全国から  
剣詩舞家が集結！  
日本財団助成事業  
令和4年度  
剣詩舞道大学  
開催

表紙の詩

江楼にて感を書す 趙嘏

独り江楼に上れば思い渺然たり

月光水の如く水天に連なる

同に來つて月を翫びし人は何処ぞ

風景依稀として去年に似たり

4

令和5年  
卯月



### 第一部 宮崎県内各流派派合吟の部

写真はトップを飾った淡窓伝光霊流宮崎詩道会による流祖・深田光霊作の『西都の月』

コロナ禍により1年延期、さらに翌年の開催10日前になって中止の憂き目にあつた全国吟剣詩舞道祭みやざき。それが昨年春に宮崎市から令和4年度中の開催を打診され、ついに3度目の正直で幕が開くことになりました。

午前中は県内合吟の部からスーパーチームの部まで、四部構成で実施。このうち第三部の県内企画構成番組「神話の故郷みやざき」は、八代輝霊大会会長の原作・演出。若山牧水、安井息軒など郷土が生



### 第二部 幼少青年吟剣詩舞の部

県内外の幼少青年による舞台。写真は熊本県吟剣詩舞道総連盟による『熊本城』(原雨城作)



### 第三部 企画構成番組その1(県内)

八代輝霊大会会長の原作・演出による「神話の故郷みやざき」。写真は民謡『裨搗き節』を交えた『ひえつき哀歌』



### 第四部 吟詠・剣詩舞スーパーチームの部

剣詩舞スーパーチームによる『Passion』。吟詠スーパーチームによる『富士山』に続き、最後は全員で『川中島の戦い』を熱演

んだ歌人や学者の詩歌を、宮崎県内各流派の吟者・舞手が、舞台上に上られた喜びとともに表現しました。

昼食休憩の後、午後はまず沼崎富日本吟剣詩舞振興会会長が「中止の時は絶望感にさいなまれたことと思いますが、この度開催の運びとなったことは誠に喜ばしい限りです」と挨拶。それを受けて八代大会会長が「(宮崎の)神話の源流の精神を礎に閉塞の時代を撃破しましょう!」と力強く檄を飛ばしました。

その言葉通り、漢詩、和歌だけでなく民謡や琵琶吟、現代音楽まで様々な要素を含んだ音楽は非常にバラエティー豊か。高度な藤上南山元老の作品を全国から集った吟詠家、剣詩舞道家が見事に吟じ、舞います。

最後は出演者全員で『めぐる年月浪の音』を合唱(3ページ)。鳴り止まぬ喝采の中で幕が降り、会場に集ったすべての人が不死鳥の如く蘇った舞台の余韻に浸りました。

第五部県外合吟の部に続いて、いよいよメインイベントの企画構成番組「旅路はるか九国海道三千里」。これはじつは7年ほど前、九州地区の指導者研修会の中で二度行われたもの。

「当時の益中鵬山議長が、研修会の中で名流大会のようなものを作ってみようとおっしゃり、藤上南山先生に企画・構成をお願いして実現したものです。とても素晴らしい内容だったのでぜひもう一度やらせていただきたいと思い、この舞台上で上演する許可をいただきました」(中武玲星大会実行委員長)